

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 観光人材確保推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光国際部 観光国際政策課 政策企画係 電話番号：058-272-1111(内3915)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 12,000 千円 (前年度予算額： 12,000 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 12,000 | 5,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,500 |
| 要求額 | 12,000 | 5,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,500 |
| 決定額 | 12,000 | 5,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,500 |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、県内観光産業は大打撃を受け、さらに県内観光事業者の雇止め等の影響により、観光人材が他産業に流出した。そして、これらの影響により、観光産業のイメージが低下し、観光産業に興味があっても就職をためらう者が増えてしまった。昨今の観光産業が置かれている状況では、県内観光事業者が単独で人材を確保することは困難であるため、県が主導して、地域や業界と連携して、観光産業のイメージを向上させるとともに、観光人材の確保を促進する必要がある。

(2) 事業内容

県内観光事業者向けに以下の取組みを行うことで、観光人材の確保を目指す。

①人材確保に向けた活動費

- ・ 出前講座の開催
- ・ 高校、大学、専門学校等とのネットワークを生かしたブース出展等

②人材の確保及び定着に向けた仕組みの強化・展開

- ・ 令和5年度に高山市において構築した仕組みを強化し、他地域へ展開

③人材確保・定着にかかる事例発表会

- ・ 令和5年度に高山市で実施した仕組み構築における実績及び課題等の共有

(3) 県負担・補助率の考え方

本事業は県内観光産業の振興を目的とする事業であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|--------|-------------------------------|
| 報償費 | 105 | 出前講座講師謝金等 |
| 旅費 | 579 | 費用弁償、業務旅費 |
| 消耗品費 | 66 | 事務用品 |
| 役務費 | 100 | 通信費等 |
| 使用料 | 150 | 会場借上料 |
| 委託料 | 11,000 | 人材の確保及び定着に向けた仕組みの強化・展開、事例発表会等 |
| 合計 | 12,000 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

④観光産業の基幹産業化

(2) 国・他県の状況

観光人材の確保は、国等でも取り組まれている。

(3) 後年度の財政負担

短期的に解決できる問題ではなく、一定期間、継続して行う必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

本事業は県内観光産業の振興を目的とする事業であり、県が主となることは妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

観光産業のイメージを向上させるとともに、各種取組により、観光人材の確保を促進させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R4年度 実績 | R5年度 目標 | R6年度 目標 | 終期目標 (R9) | 達成率 |
|-----------------|--------------|------------|------------|------------|--------------|-------|
| | | | | | | |
| ①観光消費額 | | 2,702億円 | 2,900億円 | 3,100億円 | 3,600億円 | 75.1% |
| ②観光入込客数 (実数) | | 4,263万人 | 4,750万人 | 4,800万人 | 5,300万人 | 80.4% |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|-----------------------------|
| 令和2年度 | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和3年度 | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和4年度 | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|--|
| ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない | |
| (評価) 3 | アフターコロナを迎え観光需要が増加する一方、宿泊業界は人材不足であり、十分に需要を取り込めていない。 |
| ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) | |
| ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 2 | 令和5年度の事業実施経過により得られた課題について、その解決を図る内容が盛り込まれている。 |

(今後の課題)

| |
|---|
| ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 本県が「世界に選ばれる観光地」としてさらなる成長を遂げるためには、本県観光産業の魅力を広く発信し、人材確保を進める必要がある。 |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|--|
| ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 観光産業の人材確保は短期的に解決できる問題ではなく引き続き事業の継続が必要である。 |
|--|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|----------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 | |
| 組み合わせる理由 や期待する効果 など | 【〇〇課】 |